

Serendipity

「Serendipity (セレンディピティ)」。これは思わぬ偶然から、価値のあるものを発見することを表す。18世紀のイギリス人作家がスリランカを舞台にした小説で用いた造語で、「Serendib」とはスリランカの古称である。

スリランカは、人口約2,000万人、面積は北海道の約0.8倍、南アジアの小国である。8つの世界遺産やビーチリゾートなど観光資源の豊富な国だ。しかし、1983年から2009年までの26年間は民族対立で事実上の内戦状態だったため、外国からの投資や観光客は伸び悩んでいた。内戦終結後はサービス業を中心に、平均7.4% (10年～14年)の成長率で経済発展を遂げている。一人あたりGDPは3,600米ドルを超え、インドの約2倍だ。中東やアフリカなども視野に環インド洋経済圏のビジネス・ハブを目指そうとするスリランカにおいて、首都で人口最大の港湾都市コロンボに注目が集まっている。

コロンボの強みは、①地理的優位性②整備されたインフラ③高い教育水準である。世界地図でアフリカから日本を見ると一目瞭然で、スリランカはその真ん中に位置する。港湾と道路網が整備され、シンガポールと比べると南アジアの主要都市への輸送日数は約半分、輸送コストも日本向け輸出は人件費や港湾使用料が安い。英語能力が高く、コロンボで働く人々の大半は英語で意思疎通が可能だ。加えて、作業員の賃金はシンガポールの約8分の1。これにより、コロンボを物流と営業の拠点とする企業が増加してきている。

1951年サンフランシスコ講和会議で、スリランカ(当時セイロン)代表・故ジャヤワルダナ大臣は「日本の掲げた理想に独立を望むアジアの人々が共感を覚えたことを忘れないでほしい」と述べ、また「憎悪は憎悪によって止むことなく、慈愛によって止む」という仏陀の言葉を用いて対日賠償請求権の放棄する旨の演説を行い、日本を国際社会の一員として受け入れるよう訴えた。死去の際には「右目はスリランカ人に、左目は日本人に」との遺言を残し、実際に左目は献眼され、角膜は日本人に提供されている。スリランカは、日系企業のアジアでのビジネス展開において「Serendipity」の可能性ある親日国だ。

「しがきんアジア月報」4月号より
バンコク駐在員事務所長 河村 正弘



海岸線が長いコロンボには、観光客も増加している



香港の金融・ビジネスの中心地、中環(セントラル)。米高級ブランド店の旗艦店が撤退後、スポーツ用品店が入居予定だ

いている。

これらは不動産賃料の下落を呼び、高級ブランド店や宝飾店が並ぶ繁華街の様相を徐々に変えている。

注目される香港市場の“今後”

繁華街の商業施設の売り上げが苦戦する一方で、地元の消費需要は、「飲食店収益」「スーパー」「食品、酒等(スーパー除く)」などが底堅く、地元客向けの小売業の売り上げは堅調に推移している。最近では、地元客をターゲットにした住宅地付近への出店が増加したり、繁華街への

ポップアップストア(期間限定店舗)の出店が目立つなど構造変化が起こっている。

日本への外国人旅行者の約3倍にあたる年間5,930万人の旅行者が訪れる香港。中国本土客の動向を主因に確実にその“表情”を変えつつある。まさに日本の観光動向を先取りする形で顕在化する変化だ。

中国人観光客の「爆買い」で業績を伸ばす日本経済の“今後”を占ううえでも無関心ではられない香港小売市場の最近の動向である。



地元客で賑わうショッピングセンター

“表情”を変える香港小売市場

text by 滋賀銀行 香港支店 富田 達也(執筆時)

香港には、年間6,000万人近くもの外国人旅行者が訪れ、その数は訪日外国人旅行者の約3倍である。彼らの莫大な消費は香港経済を潤している。しかし昨年、その数が12年ぶりに減少した。今回は、その影響を受けた香港の小売市場の現状と今後をレポートする。

香港への旅行者が減少

香港政府観光局が発表した2015年の旅行者数は、前年比2.5%減の約5,930万人となり、新型肺炎(SARS)が流行した03年以来、12年ぶりのマイナスとなった。全体の約8割を占める中国本土からの旅行者の減少が目立つ。中国の景気減速や為替の影響による要因が大きい。加えて、買い物強制するツアーガイドによる暴行事件などの不祥事多発が、香港の観光イメージを大きく損ねた。隣接する広東省深圳市民に対して発行するマルチビザ(何回も入出国が

可能なビザ)の入境回数に制限を加えたことも、旅行者数の減少に拍車をかけた。

2015年の香港小売業動向

香港政府統計処の発表では、15年通年の小売業売上高(速報値)が4,751億香港ドル(約7兆1,265億円)で、前年比3.7%減となった。2年連続の減少で、マイナス幅も前年(0.2%減)から拡大した。

香港での中国本土客の消費の中心が高額品から中・低価格帯に移行したことも売り上げ減少の主な要因と考えられている。

中国本土客の消費動向も変化

これまでの売り上げを牽引してきた「宝飾品・時計・高級贈答品」の落ち込みが特に激しく、前年比15.6%減となっている。

このあおりで15年8月には、中環(セントラル)地区にあった高級ブランドの旗艦店が閉店。跡地には、スポーツ用品店が入居予定だ。また、世界一高い賃料を誇った繁華街、銅鑼湾(コーズウェイベイ)のラッセルストリートでは、高級ブランド時計店が撤退し、格安化粧品の小売店が入居するなど、店舗の入れ替わりが続

香港への旅行者数の推移(上位5か国)(単位:万人)			
	2014年	2015年	前年比増減
中国本土	4,724	4,584	-3.0%
台湾	203	201	-0.8%
韓国	125	124	-0.6%
米国	113	118	+4.5%
日本	107	104	-2.7%
合計	6,083	5,930	-2.5%

資料:香港政府観光局

香港小売業売上及び内訳、飲食店収益(単位:億香港ドル)			
	2014年	2015年(速報値)	前年比増減
小売業売上	4,932	4,751	-3.7%
宝飾品・時計・高級贈答品等	1,020	862	-15.6%
衣料・靴等	655	610	-6.7%
百貨店	522	501	-4.1%
スーパー	513	520	+1.3%
食品、酒等(スーパー除く)	381	403	+5.9%
飲食店収益	1,004	1,044	+3.9%

資料:香港政府統計処